

# 脳・心臓・血管 ワースト脱却処方箋

from 獨協医大



武井祐介助教

大動脈瘤と大動脈解離は、似て非なる疾患です。大動脈は「内膜・中膜・外膜」の3層構造の管です。心臓から出て

## 大動脈瘤・大動脈解離

ぐの上行大動脈が胸の中でUターンして左背側を走り、胸部大動脈として腹部大動脈と名前を変え、途中で枝を出しながら全身に血液を供給しています。

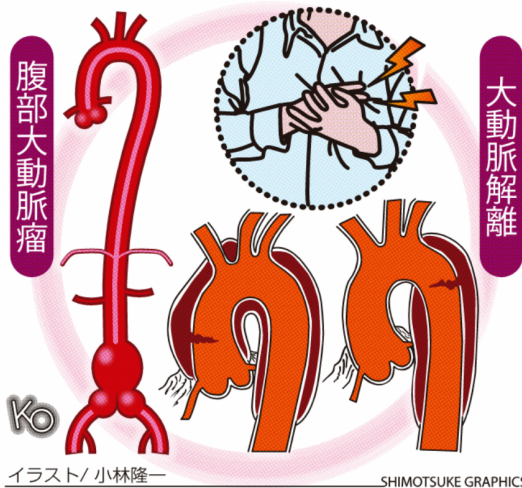
3層構造の内膜に亀裂が生じ、そこから血管壁に大量の血液が急激に流れ込んで中膜が裂けてしまふのが大動脈解離です。

今まで経験したことのないような痛みとよく表現されますが、それが胸部から背部、腹部へと血管が裂けると同時に襲ってきます。

心臓近くの上行大動脈まで裂けていた場合、放っておくと大動脈が破裂する危険性が高いため、診断がつかず、手術が必要となります。俳優の石原裕次郎さんや最近ではコメディアンに加藤茶さんが発症し、手術を受けて生還したのが有名です。

# 破裂するまでは無症状

一方、大動脈が風船のように膨らんでしまったのが大動脈瘤です。できる場所によって胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤と言います。痩せている人のおなかを触り、時に拍動性のしこりを発見することもありますが、多くは他の病気で胸部エックス線撮影やコンピュータ断層撮影装置(CT)検査をしたときに偶然見つかります。つまり大動脈瘤は破裂するまでは無症状



イラスト/小林隆一 SHIMOTSUKE GRAPHICS

で、破裂して初めて激痛が生じ命を奪う怖い病気です。

2年前、高血圧で近所のクリニックに通院中の60代の男性が腹部拍動性腫瘍を自覚して来院しました。ランニングや草サッカーを精力的にこなす活発な方で、以前からおなかの出っ張りには気付けていました。最近「太ったかな」程度でさして気にも留めていなかったようです。

しかし夜あおむけに寝ておなかに手を当てる時、その出っ張りは「どくどく」と拍動してしまいました。気になってクリニックの先生に相談したそうです。

CT検査をすると案の定、8センチの腹部大動脈瘤(通常5センチ以上で破裂の危険性)の診断。すぐに入院し手術(ステングラフト内挿術)を受けました。1週間程度の入院で退院し、男性は今でも元気にグラウンドを駆け回っています。

もし、おなかの異常に気付かなかつたら…。想像するだけで恐ろしいですね。

高血圧や脂質異常症と言われたことのある人は、一度おなかに手を当ててみてください。「どくどく」と何かしこりのようなものを感じたら、かかりつけ医に相談してみてください。

(獨協医大心臓・血管外科学助教 武井祐介) (毎週金曜日掲載)